「医療施設・介護施設の利用者に関する横断調査」速報値
【介護療養病床関連部分抜粋】

１．調査概要

○　調査時点：平成 22 年 6 月 23 日

○　調査対象と回収状況

平成 22 年 7 月 12 日（月）時点における回収状況は以下の通り。

調査対象施設	発送数	回収数（施設票）	回収数（患者票）	回収率※1	平均年齢※2
介護療養型医療施設（病院）※3	1,597	840	16,603	52.6%	84.2 歳
介護療養型医療施設（診療所）	630	166	576	26.3%	86.2 歳
介護老人保健施設	2,000	853	24,449	42.7%	84.8 歳
介護老人福祉施設	2,000	854	19,785	42.7%	85.9 歳

※１．施設票の回収数÷発送数

※２．　65 歳未満の患者・入所者も含む。

※３．老人性認知症疾患療養病棟を有する病院を含む。以下、「介護療養病棟」という

（参考）医療保険適用の病床を有する医療機関等（保険局調査）

調査対象施設	発送数	回収数（施設票）	回収数（患者票）	回収率※1	平均年齢※2
療養病棟入院基本料の算定病棟を有する病院（医療療養病棟） (1)看護配置 20:1(2)看護配置 25:1	2,744	1,400	27,993	51.0%	(1)79.2 歳 (2)81.2 歳
有床診療所療養病床入院基本料を算定している診療所	1,189	210	663	17.7%	83.9 歳
在宅療養支援病院の届出病院・診療所	3,026	507	3,741	16.8%	82.8 歳

※１．施設票の回収数÷発送数

※２．　65 歳未満の患者・入所者も含む。

２．患者・入所者の状態像の比較

１）医療区分について

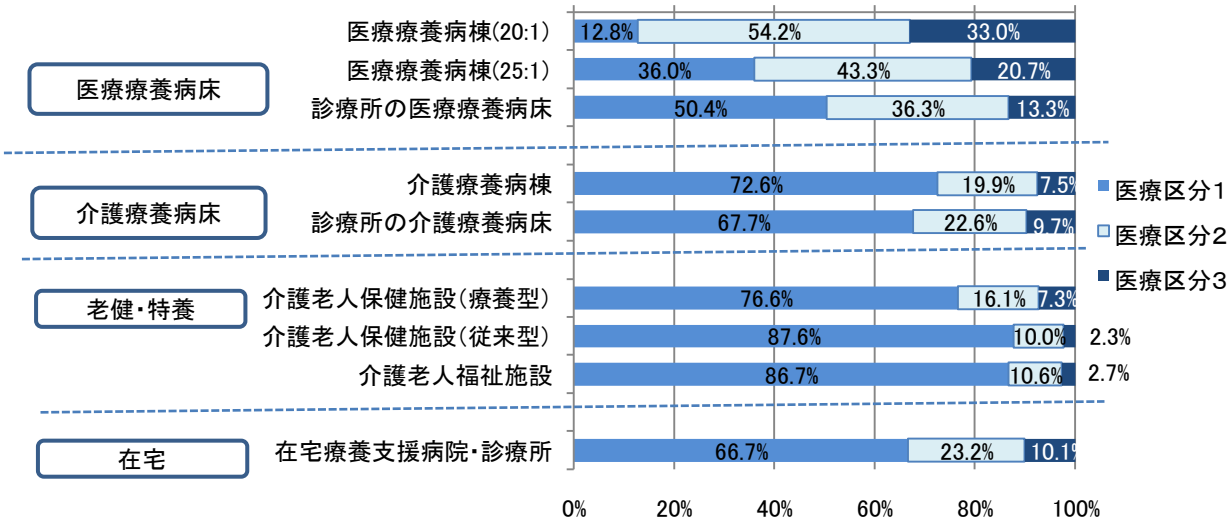
○　施設毎の医療区分については、介護療養病床の患者では、医療療養病床の患者よりも「医療区分１」の占める割合が高く、「医療区分２」及び「医療区分３」の割合が低い（図１）。また、平成 17 年及び 18 年に実施された調査※を比較しても、近年は医療療養病床においては「医療区分３」の患者が増加しており、介護療養病床と医療療養病床の機能分担が進みつつあると言える（図２）。

※：「慢性期入院医療の包括評価に関する調査」保険局医療課

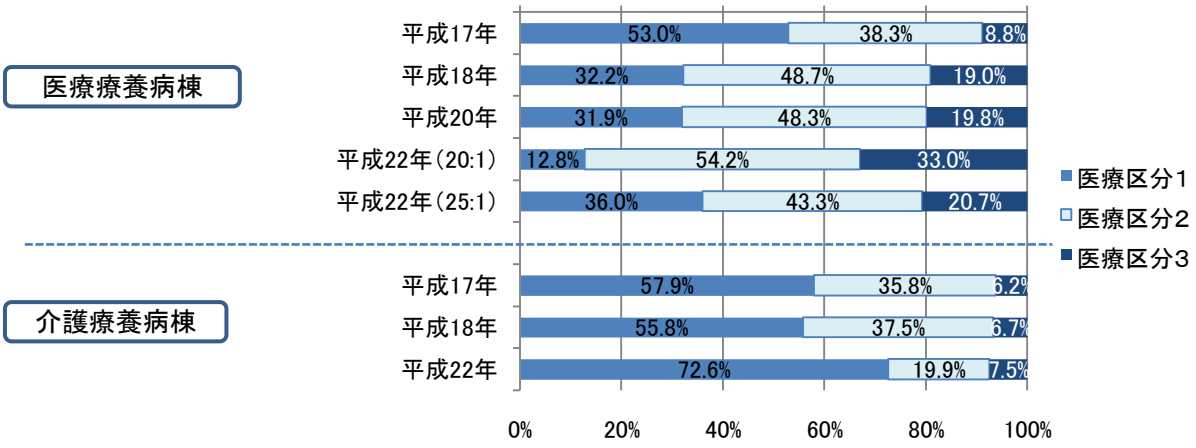
○　介護療養型老人保健施設（以下、「介護老人保健施設（療養型）」という。）の入所者と、介護療養病床の患者では医療区分の割合に大きな差がない（図 1）。

○　在宅療養支援病院または診療所から医師の訪問診療等を受けている在宅療養患者（以下、「在宅療養患者」という。）と、介護療養病床、介護老人保健施設および介護老人福祉施設の患者及び入所者では、在宅療養患者で医療区分３の割合が高い（図 1）。

［図１］施設類型別の医療区分



［図2］医療区分の年次推移



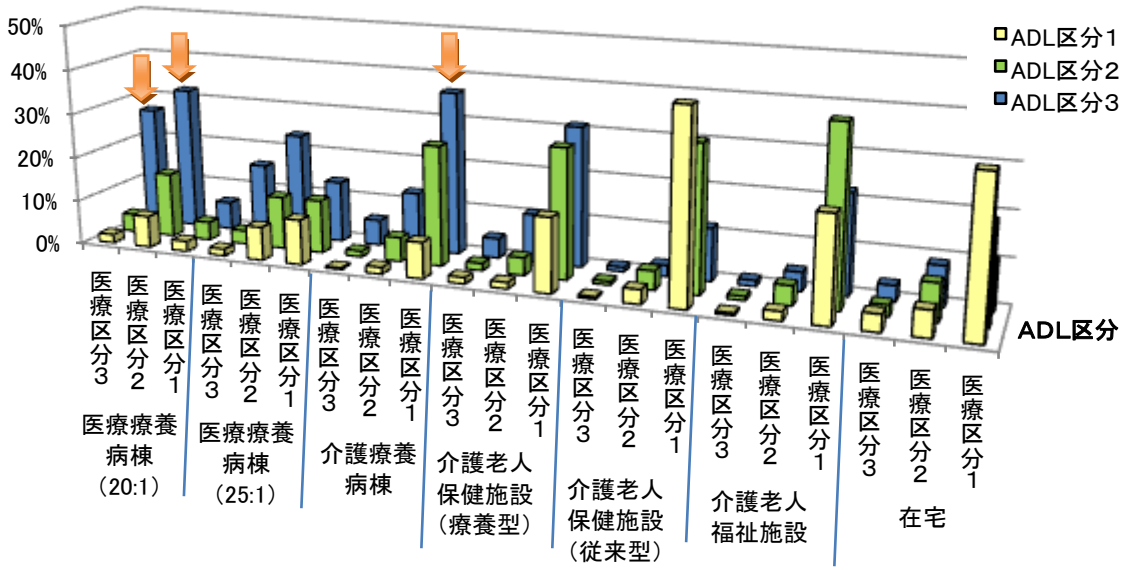
出典：平成18年度、平成20年度「慢性期入院医療の包括評価に関する調査報告書」

２）医療区分とＡＤＬ区分について

注：ADL 区分･･･診療報酬上の「療養病棟入院基本料」を算定する際に、ベッド上の可動性、移乗、食事、トイレの使用に関する過去三日間の支援のレベルについて評価する指標。要介護認定における評価指標とは異なる。本調査では、調査時点の状態像を調査した。

○　医療区分毎の ADL 区分について比較した場合、医療療養病棟では、医療区分２もしくは３であって ADL 区分３の患者の割合が高く、介護療養病棟では、医療区分１かつ ADL 区分３の患者が多く、介護療養病棟の患者と、医療療養病棟の患者では、分布に差が認められる傾向にある。

［図3］医療区分とADL区分の分布



３）医療の提供状況について

○　介護療養病棟においては、中心静脈栄養、人工呼吸器の使用、気管切開、酸素療法を行っている患者の割合が、医療療養病棟における割合より低い。

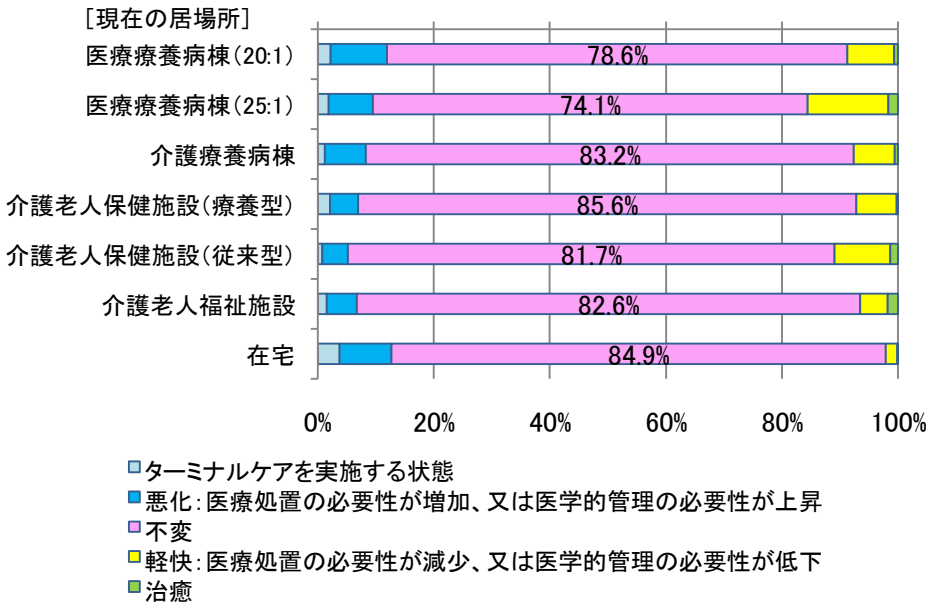
[表1]医療の提供状況

	医療療養病棟（20:1）	医療療養病棟（25:1）	介護療養病棟	介護老人保健施設（療養型）	介護老人保健施設（従来型）	介護老人福祉施設	在宅
総　数	14,472 人	13,521 人	16,603 人	436 人	24,013 人	19,785 人	3,741 人
中心静脈栄養	8.8%	5.3%	0.9%	0.0%	0.0%	0.1%	0.9%
人工呼吸器	2.2%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%
気管切開・気管内挿管	15.9%	7.2%	1.7%	3.5%	0.1%	0.1%	3.6%
酸素療法	19.7%	11.4%	2.9%	2.3%	0.5%	0.8%	7.1%
喀痰吸引	40.2%	25.6%	18.3%	14.9%	2.4%	4.4%	7.6%
経鼻経管・胃ろう	35.7%	29.9%	36.8%	35.1%	7.3%	10.7%	12.4%

４）今後の病状の見通しと適切な療養場所について

○　施設が判断した「今後の病状の見通し」については、「不変」を選択した割合が高い。

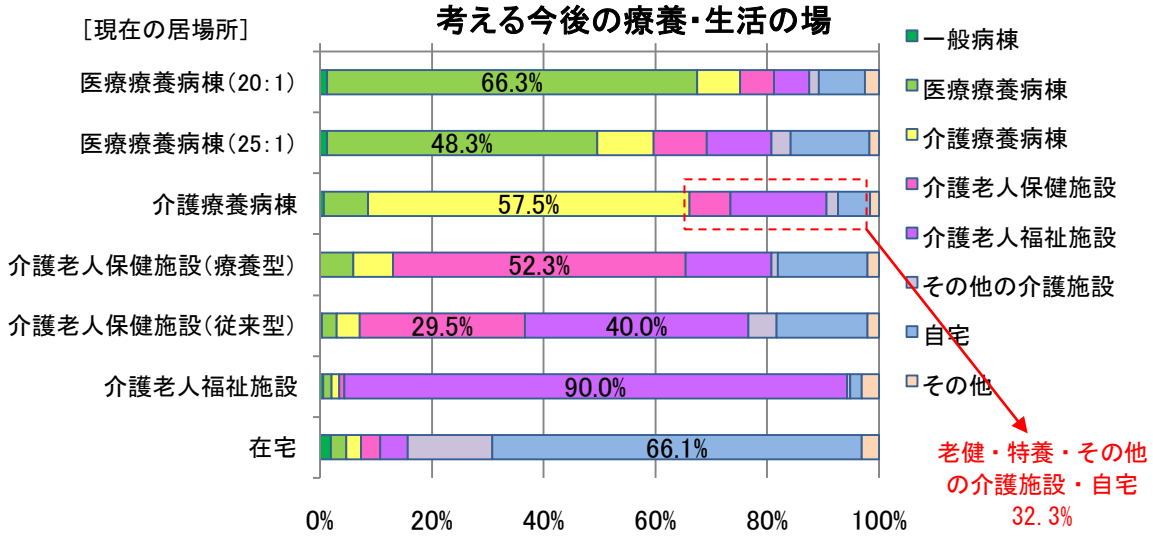
[図4]今後の病状の見通し



○　施設が今後の病状の見通しを踏まえて判断した「最も適切な生活・療養の場」については、現在の施設を選択した割合が高い。

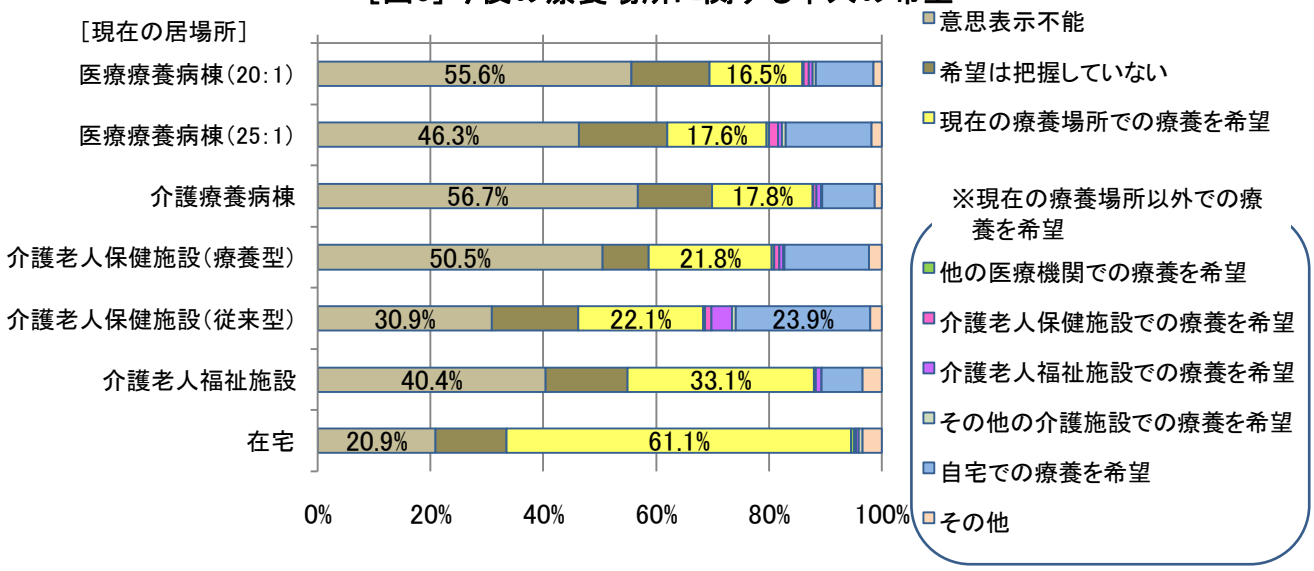
○　介護療養病棟において、「医療療養病棟」または「一般病棟」が適切であると選択した割合は 8.6%であったが、「介護老人保健施設」、「介護老人福祉施設」、「その他の介護施設」及び「自宅」が適切であると選択した割合は、32.3%であった。

［図5］病状の見通しを踏まえて、施設が最も適切と考える今後の療養・生活の場



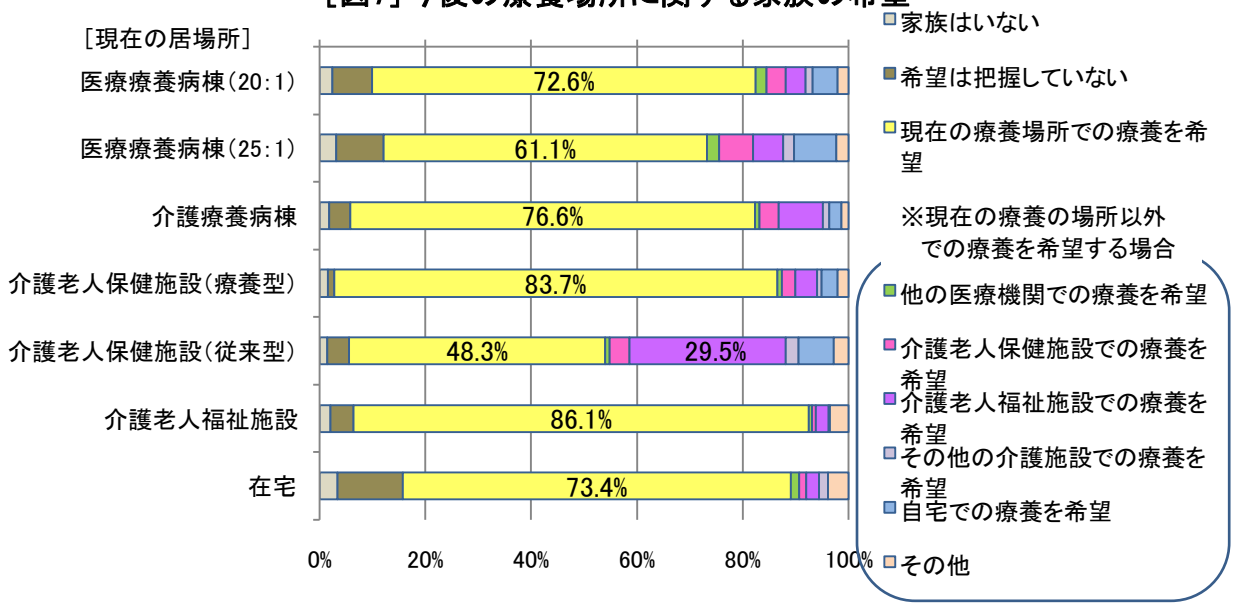
○　今後の生活・療養の場に関する本人の希望については、介護療養病棟では、医療療養病棟とともに、「意思表示不能」を選択した割合が高い。

［図6］今後の療養場所に関する本人の希望



○　今後の生活・療養の場に関する家族の希望については、「現在の療養場所」を選択した割合が高いが、介護老人保健施設においては、「介護老人福祉施設」を選択した割合が高い。

[図7]今後の療養場所に関する家族の希望



【参考】

一般病棟 13 対 1、15 対 1 入院基本料を算定する医療機関について

１．調査対象と回収状況

調査対象施設	発送数	回収数（施設票）	回収数（患者票）	回収率	平均年齢
一般病棟 13 対 1 入院基本料の算定病棟	651	226	3,999	34.7%	76.4 歳
一般病棟 15 対 1 入院基本料の算定病棟	1,334	486	7,874	36.4%	77.6 歳

２．患者の状態像の比較

１）医療区分とＡＤＬ区分について

		一般病棟 (13:1)	一般病棟 (15:1)
医療区分３		30.4%	31.7%
	ＡＤＬ区分３	15.2%	18.0%
	ＡＤＬ区分２	6.0%	6.4%
	ＡＤＬ区分１	7.5%	5.7%
	無回答	1.8%	1.6%
医療区分２		36.0%	35.4%
	ＡＤＬ区分３	7.1%	8.2%
	ＡＤＬ区分２	8.5%	9.7%
	ＡＤＬ区分１	19.9%	17.1%
	無回答	0.6%	0.5%
医療区分１		33.6%	32.9%
	ＡＤＬ区分３	4.1%	5.8%
	ＡＤＬ区分２	6.0%	8.3%
	ＡＤＬ区分１	20.6%	16.8%
	無回答	2.9%	2.0%

２）医療の提供状況について

	一般病棟 (13:1)	一般病棟 (15:1)
中心静脈栄養	8.1%	10.6%
人工呼吸器	1.5%	1.6%
気管切開・気管内挿管	4.0%	4.8%
酸素療法	13.1%	14.5%
喀痰吸引	18.4%	21.7%
経鼻胃管・胃ろう	13.9%	17.1%

３）医療機関が判断した今後の病状の見通しについて

	一般病棟 (13:1)	一般病棟 (15:1)
ターミナルケアを実施する状態	3.9%	3.2%
悪　化	5.3%	8.5%
不　変	29.8%	38.8%
軽　快	45.7%	40.4%
治　癒	13.5%	7.0%

４）医療機関が判断した今後の適切な療養場所について

	一般病棟 (13:1)	一般病棟 (15:1)
一般病棟	11.2%	18.1%
医療療養病棟	11.3%	13.1%
介護療養病棟	4.8%	5.4%
介護老人保健施設	7.1%	7.7%
介護老人福祉施設	6.0%	8.4%
その他の介護施設	2.3%	3.4%
自宅	53.4%	40.2%
その他	1.6%	0.9%

５）今後の療養場所に関する本人の希望

	一般病棟 (13:1)	一般病棟 (15:1)
意思表示不能	25.5%	31.4%
希望は把握していない	12.6%	13.6%
現在の療養場所での療養を希望	4.4%	7.6%
他の医療機関での療養を希望	0.9%	0.9%
介護老人保健施設での療養を希望	1.7%	2.3%
介護老人福祉施設での療養を希望	1.5%	1.5%
その他の介護施設での療養を希望	0.9%	1.2%
自宅での療養を希望	49.9%	38.2%
その他	0.7%	1.2%

６）今後の療養場所に関する家族の希望

	一般病棟 (13:1)	一般病棟 (15:1)
家族はいない	3.4%	4.6%
希望は把握していない	17.2%	14.7%
現在の療養場所での療養を希望	15.5%	24.8%
他の医療機関での療養を希望	3.5%	4.0%
介護老人保健施設での療養を希望	6.9%	8.1%
介護老人福祉施設での療養を希望	5.6%	6.4%
その他の介護施設での療養を希望	2.5%	3.0%
自宅での療養を希望	41.0%	29.6%
その他	2.0%	1.6%